

男女共同参画の視点を持つということ

二村良子

全国的に『ジェンダー』をとらえて“性差”という言葉のみをつまみ上げたパッシングの嵐の中で、1年ほど前まで、この『男女共同参画』は霞の中に置かれていたように思います。ここに来て、日本の近い将来に予測される労働力不足が重要課題となり、女性の労働市場への参加・社会参加をどうしたら進められるのかという世論に押されて、再度登場したと考えます。

豊川市で男女共同参画条例制定の動きのある中で、『男女共同参画』に込められた意味や思いを、皆さんと共にきちんと考え、学び、深めていくことを望んでいます。

また、今日のこの会では、お互いに自分や人の意見をふくらませることができたらいいなと思っています。ご協力、よろしくお願いします。

尚、第4項目・第5項目については、鈴木節子さん（豊橋CAP代表）から具体的なお話をしていただきます。

1. 平成20年度の男女共同参画推進関係の政府予算案から見えるもの
2. ワーク・ライフ・バランスをどうとらえたらよいか？
3. 男女共同参画はあらゆる年代層の視点でとらえるべき
4. 児童虐待被害者支援・DV被害者支援の地域活動を通してみえるもの
5. 男女共同参画は人権問題ではないか？